

めぐみイエス・キリスト教会

2022年6月12日(日)第二主日礼拝
週報「通算第612号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌416「聖霊来たれり」 p. 668

【交読文】 No.20 詩篇第57篇(抜粋) p. 894

【賛美Ⅱ】 新聖歌16「いざやもろともに」 p. 20

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.5「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き17章1節～9節(新約p. 269)

【礼拝説教】 《テサロニケのヤソン》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き17章1節～9節)

17:1 パウロとシラスは、アンピポリスとアポロニアを通過して、テサロニケに行った。そこにはユダヤ人の会堂があった。

17:2 パウロは、いつものように人々のところに入って行き、三回の安息日にわたって、聖書に基づいて彼らと論じ合った。

17:3 そして、「キリストは苦しみを受けて、死者の中からよみがえらなければならなかったのです。私があなたがたに宣べ伝えている、このイエスこそキリストです」と説明し、また論証した。

17:4 彼らのうちのある者たちは納得して、パウロとシラスに従った。神を敬う大勢のギリシア人たちや、かなりの数の有力な婦人たちも同様であった。

17:5 ところが、ユダヤ人たちはねたみに駆られ、広場にいるならず者たちを集め、暴動を起こして町を混乱させた。そしてヤソンの家を襲い、二人を捜して集まった会衆の前に引き出そうとした。

17:6 しかし、二人が見つからないので、ヤソンと兄弟たち何人かを町の役人たちのところに引いて行き、大声で言った。「世界中を騒がせてきた者たちが、ここにも来ています。」

17:7 ヤソンが家に迎え入れたのです。彼らはみな、『イエスという別の王がいる』と言って、カエサルの詔勅にそむく行いをしています。」

17:8 これを聞いた群衆と町の役人たちは動揺した。

17:9 役人たちは、ヤソンとほかの者たちから保証金を取ったうえで釈放した。

●ポイント1.「テサロニケ」とは？

■**テサロニケ** マケドニヤのテルマ湾の北端に位置する海港で、港としては絶好の地であった。紀元前315年頃マケドニヤの王カサンドロスが近隣の26の町村の住民を集めて新しい市を創設、妻テサロニカ(アレクサンドロス大王の異母妹)にちなんでテサロニケと命名した。紀元前146年には、ローマの属州マケドニヤとなり、テサロニケがその首都となった。テサロニケが通商上重要な地位を占めたのは、良港のためだけでなく、ローマ東方諸国をつなぐ大街道(エグナティア街道)に沿っていたからである。パウロが第2回伝道旅行で訪れた時には、人口は12万人と推定される。この町にはユダヤ植民地も多数あり、ユダヤ人の会堂もあった。

●ポイント2.「ヤソン」とは？

■**ヤソン** テサロニケでパウロとその一行を自分の家に泊めた人物。やがて、この家がテサロニケ教会になったと思われる。ローマ書には、パウロが、「同国人ヤソン」と呼んでいることから、彼はユダヤ人であって、また、テサロニケの会堂管理人であったとも考えられる。

●ポイント3.「王」としての主イエスとは？

※ヨハネの福音書18章33節～37節「ピラトへの言葉」(新約p.233下段中)

◎先週の礼拝メッセージの概要【約束された聖霊】

《今日は五旬節であり、聖霊降臨日です。さて、主イエスは、最後の晩餐において、初めて「聖霊」について話されました。「私が父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え下さいます。この方は真理の御霊です。この方はあなたがたと共にいつまでもおられるようになるのです。」

助け主とは、パラクレートスと言い、援助の為に呼ばれた人と言う意味です。そして、主と全く同じお方と言う意味で「アロス」がついています。

五旬節の日の朝9時頃に、ヨハネ・マルコの家の屋上の弟子たちに、突然、天から大音響を轟かせて聖霊が降って来ました。この大きな物音を聞き、ローマ帝国内から巡礼にやって来ていた、ディアスポラのユダヤ人たちは、皆集まって来たのです。彼らは、自分たちが住んでいる地方の言葉で、弟子たちが神を誉め讃えていることを耳にします。その時、シモン・ペテロが立ち上がって、群衆を静粛にさせ、メッセージを語ります。「イエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。ですから、神の右に上げられたイエスが、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いで下さったのです。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」と。

五旬節の祭に残っているディアスポラのユダヤ人は、エルサレム市内に住んでおり、大変に裕福な者たちです。彼らは過越の祭が始まる一週間前から、五十日目を数える五旬節が終わるまで、エルサレムに留まります。彼らは総督ピラトによるナザレのイエスの裁判の席にいたのです。

人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロと他の使徒たちに願い出るのです。「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか」

「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」ペテロの言葉を受け入れた人々はバプテスマを受けました。そしてその日、三千人ほどの兄弟が、新たな仲間に加えられたのです。》

◎お知らせ

※6月19日(日)の第三主日礼拝は、通常通り午前10時からです。また6月17日(金)マイライフジーザス集会在、午後2時よりあります。